「SNS を活用した英語授業での取り組み」

澤田　あゆみ
Email: sawada@kobe-michael.ac.jp

◎Key Words 小・中・高校教育，教育・学習とコンピュータ、英語、実践報告

1.　はじめに

2013 年 12 月から Asia-Europe Classroom Net (以後 ASEF)[1]という組織の行っているプロジェクト形式の取り組みに参加している。目的はアジアとヨーロッパの学校間で、共通のプロジェクトを通して、教室にいながら国境や言葉の壁を乗り越えてお互いつながろうというものである。インターネット、スマートフォンなどの普及によって、高校生もクラスの８割程度がスマートフォンを持っている。それによって SNS の使用が広まっていることを活かして、英語の授業でも積極的に SNS を活用し、英語への興味関心を生徒が自主的に高められないかと考え取り組んだことの実践報告である。

2.　Asia-Europe Classroom Net のプロジェクト

2.1　プロジェクトの活動内容

プロジェクト内にいくつかの研究テーマと手順があり、各学校から参加したクラスやグループはそれに沿って活動を行いながら、Facebook のグループに参加して活動報告を共有する。また、プロジェクトによっては別に共有のためのサイトを利用している場合もある。各活動の発表方法も Mapbox[2], Sketchup[3], TwinSpace[4]などを利用しているプロジェクトもある。

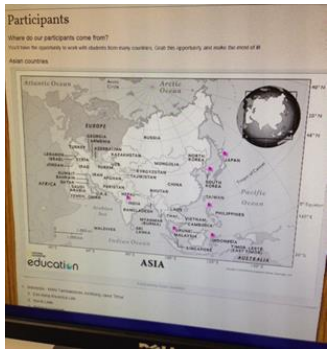
2.2　プロジェクトの選択と参加方法

2013 年 10 月 28 日から 11 月 1 日にインドネシアのバリ島で行われた大 11 回 ASEF Asia-Europe Classroom Network カンファレンスで、前回の優秀プロジェクトの決定と表彰、そして 37 の新しいプロジェクトが紹介された。その 37 プロジェクトの主催者がブースごとに分かれてプレゼンを行う。そのプレゼンでプロジェクトの内容や手順や目標などを説明し、各国から参加した見学者は参加したいという意思を伝えるというまるで、デパートで買い物をするような形で行われる。

2.3　プロジェクトの期間と内容

プロジェクトの活動期間は基本的に 12 月から６月までの６ヶ月で、いくつかの段階を経て、まとめる作業の段階まで進めることになる。本校は、2013 年の 12 月から以下のプロジェクトに参加した。

①「Let's Eat」各国の食べ物について、②「UNESCO Village」世界遺産に登録されているものについて、③「Adventure to the architecture and art」各国の特徴ある建築物について、④「Gift to Friend」各国の贈り物の文化について、⑤「World War 2 - Keep it a history」各国での第二次世界大戦時について、⑥「Recycle and Reuse」各国のごみやリサイクルの況やごみのユニークな再利用方法についてである。



左の写真は「UNESCO Village」の参加国を世界地図上に赤いポイントで記されたものである。プロジェクトのホームページでこのようにして世界各国の生徒が参加しているということを分かりやすく示し、主催者は取り組みへの意識をあげている。

3.　本校での参加取り組みの現状

3.1　各プロジェクトに参加した教科と生徒

英語だけではなくほかの教科に協力、参加を呼びかけた所、地歴公民の教諭と家庭科の教諭が名乗りをあげてくれたので、私の受け持つ英語を含め３教科でスタートをした。しかし、学校行事や単位数の関係で家庭科は、結局、参加できなかった。

また、本校はコース制を敷いていて協力してくれた教科が関わっているコースは３つにまたがっていた。１年から３年までクラス変更のない特進コースと１年生のアスリートコース、また２年に進級するにあたってクラス替えがある進学コースである。１年の進学コースはクラス分けによって、年度明けからのプロジェクトの継続ができなくなってしまった。そして、アスリートコースでは、設備環境の面で PC 教室がなかなか使用できない現状と、寮の生徒や厳しい練習の後に自分たちの時間を使って活動をすることが難しく、途中で挫折してしまった。最終的に、特進コース 1 クラスのみが、プロジェクトを最後までやり遂げた。

3.2　プロジェクトの取り組みで得られた効果

本校の生徒の英語力は中学の基礎を、一からおさらいしなければならないくらいで、決して英語力が高いとは言えない。しかし、今回の取り組みを通して基礎的な英語の書き方などの仕組みを、黒板に書いて説明してという講義形式は利用しなかった。直接生徒が英語を見て、メッセージなどを投稿するために英語を入力することによって、生徒は自然と英語を学ぶことができた。また、アジア、ヨーロッパの英語を母国語としない人たちとの交流によって、間違いがあっても通じ合えることができるという喜びと、自分たちの発信したものが伝わることの喜びを感じることができ、英

語への苦手意識が軽減されたという効果がみられた。

より詳しく見ると、今回のプロジェクト参加によって得られた効果は 3 種類ある。それらは①「英語を使うこと」②「外国の友達を作り実際にコミュニケーションをとること」③「さまざまなサイトを活用すること」であった。①の効果はまず、英語の基本的な文の書き方やスタイルを生徒が直接見て書いてという、実践を通して学べたことである。文の最初は大文字でなければならないこと、固有名詞の始まりは大文字でなければならないこと、単語と単語の間にはスペースが必要だということ、文の最後には文の形によって必ずピリオドやクエスチョンマークが必要だということ、また翻訳サイトは 100%信用できるものではないこと、などである。②の効果はクラスの 8 割以上が持っていなかった Facebook に自分でアカウントを作ったり、設定を海外の参加校の友達からもわかってもらえるために英語表記にしたりした。また、指定されたさまざまなサイトを使うことに挑戦し、努力をしたことなどがあげられる。③の効果は英語でプログラムされているサイトを使用しなければならなかったことがある。中には、とても高度な技術を要する Sketchup というサイトがあり、使用方法に苦戦していたがしかし、

左の写真のように、上手に使いこなして金閣寺を作成できた。

そのほかにも、ポスターを作るサイトを使用したり、地図の中に自分たちの調べた場所を埋め込んで世界地図の完成を進めたり、タイムラインのサイトを使って戦時中の時系列を作ったりとすべてのサイトが英語で説明されているため、とても難しかったとは思うけれど、積極的に楽しいと言いながら参加できていた。

4. SNS 活用による効果

Facebook を活用することによって得られた効果は①英語を積極的に使えたこと。②外国に友達ができることの喜びを感じられたこと。③授業外の時間に進んでコミュニケーションをとったりプロジェクトの活動をしていたこと。の 3 つがあげられる。①は参加国が必ずしも英語を母国語とする国の生徒ばかりではなくみんな、英語が母国語ではないのに積極的に英語を使っているのを目の当たりにし、自分たちにもできないことではないという気持ちが生まれたように見えた。

左の写真のように調べたことや紹介したいことを英文にして facebook にアップしていた。②は Facebook でプロジェクトのグループに参加し自己紹介をするとそこに様々な国の生徒からコメントや「よろしく」、「日本に行きたいです」といった内容のメッセージが来ることで積極的にメッセージのやり取りをしたり、友達を増やしたりする喜びを感じられていた。③は自分の Facebook にメッセージやコメントがつくと早く返信したいという気持ちから、自分の言いたいことを英文にしてみてそのチェックをしてほしいというメールが日々生徒から届いた。これほど自分から授業外で取り組んでくれるとは思ってもいなかった。結果、授業では活動状況の報告やヒアリング、また活動報告などを行うことができ、実質的なプロジェクトの活動は生徒たちの授業外の時間でなされていることが多かったこととなった。

5. 今後の課題

今回の初めての取り組みによって多くの効果と成果がみられたことは一目瞭然といえる。また参加する学年やコースを選択し、教科をまたいで活用すればさらに効果を高めることができるであろうと予測する。今回、活動をしていく中で実際に現地に行って写真を撮ったりインタビューをしたいという生徒からの発案によって学校からの許可を得て校外学習が実施されることにもなった。このように、プロジェクトを通して学校の中だけでなく、外へ出てフィールドワークなどへと生徒の活動が広がっていけば、教室の学習活動を超えたさらに素晴らしい経験になると思われる。

参考文献

[1] http://aec.asef.org/index.html
[2] https://www.mapbox.com/editor/?#app
[3] http://www.sketchup.com/ja
[4]http://new-twinspace.etwinning.net/web/guest